

近森病院附属看護学校 学校関係者評価

(評価期間:2024年4月1日～2025年3月31日、公開年度:2025年度)

各項目評価

評価項目	自己評価(課題・今後の改善方策など)	学校関係者評価
1. 教育理念・目標	<p>教育理念・教育目的は学校指定規則に則り整合性がある。教育理念・教育目的は、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーと連動し、看護・看護教育・学生観は教育内容に反映できている。学校の将来構想は、高知県の看護師人材確保の現状や、看護学校の存在意義を勘案しつつ、中長期目標を設定し、教育理念、教育目的は、学校長の具体的な指針とともに明示され様々な場面で伝えている。今後の課題は、専門学校が看護基礎教育を行う意義の明確化を行い、卒業後も臨床と連携を取り継続した教育を実施することである。</p>	<p>教育理念・教育目標は、学校指定規則に則り、整合性がある。高知県の看護師人材確保等についても、県の目標、計画に従って本学の目標を定め、現場の教員はもとより学生、保護者などに対して、様々な場面で周知している。</p>
2. 教育活動	<p>新カリキュラムでの教育体制になって4年が経過し、「生活者の視点で考える素地ができていく」といった肯定的な意見もあり、解剖生理・病態生理を看護に繋げていく思考も定着しつつある。また、教育活動を実践していくための指導体制や評価体制の確立、人材育成目標に向けた授業を行うことができる要件を備えた教員の確保など、計画的に行われていることは評価できる。</p> <p>ただ、現場の状況や学生のレディネスも少しずつ変化しているところもあり、授業内容や教授方法、実習場所、日数など、全体としての繋がりや関連性を評価し、再検討が必要な部分もある。</p> <p>今後は明確となった課題をもとに改善策を検討・実行し、評価をあげていくことを目指す。</p>	<p>基礎的な科目である解剖生理、病態生理を看護実践につなげるために、有効なカリキュラムを策定している。また母体病院である近森病院など関連施設と連携を取りながら効果的な実習を行っている点は評価できる。今後は、連携のさらなる拡大も必要である。</p> <p>授業評価は自己評価委員会によって確実に実施され、講師会や臨地実習指導者会を通じて講師や実習施設にフィードバックしている。また学校関係者評価委員会等において、外部の意見を積極的に取り入れている。今後は、授業改善につながる、よりスピーディな取り組みも必要である。成績評価の基準は明確であり、縦割りアドバイザー制度を実施し、複数人による指導体制を取っている。それによって国家試験の合格率が前年度より10%以上、上昇した点は評価できる。</p> <p>専任教員養成講習を1名が受講し、専任教員としての資格を取得した。また看護教育に関する研修や講習、セミナーを積極的に活用し、教員の資質向上や指導力向上に努めている。今後は、個人に受講を委ねるだけでなく、全体的なシステム作りも必要である。</p>
3. 学修成果	<p>本校では、就職率において高水準を維持しているものの、学生の第1希望とのミスマッチや、国家試験対策が3年次後半に集中している点などに課題がある。今後は、就職支援においては病院や施設の情報をより詳しく提供し、進路選択の精度を高める取り組みを強化する。また、資格取得支援においては1・2年次から模試や補講を体系的に行い、基礎学力の定着を支援する。</p> <p>退学率は低いが、経済的・精神的支援が一部教員に依存しているため、支援体制の個人負荷を防ぐ必要がある。面談記録の標準化や教職員間の情報共有体制の強化を図る。</p> <p>卒業生の活躍状況については、実習先での聞き取りやグループ LINE による非公式な情報収集にとどまっており、正式なフィードバックや系統的なデータ収集ができていない。今後は、勤務先や卒業生を対象とした簡易アンケートの導入に</p>	<p>学生の希望に応じた個別の就職支援ができており、就職率も高く、評価できる。ほとんどが高知県内に就職しており、看護師の県外流出をさせない努力をしている。高知県、地域へも貢献する結果となっている。</p> <p>国家試験に向けた学力向上のための詳細なスケジュールが組まれており、特別に支援が必要な学生には早い段階から教員が察知し、関わっている様子が見られる。退学阻止の支援についても、教員の細かな関わりや院外のカウンセラーなどにも協力を求め、対応できている。入学後、看護師に向いていないと考える学生は一定数おり、そのような学生に対する早い段階での指導体制ができていく。</p> <p>開学 10 周年を機に卒業生の連絡網を整備し、卒業生から在校生に対する就職研修を企画し、実施した。卒業生の活躍の把握や評価、及び在校生のキャリア形成のイメージ作りに役立っており、有効な取組と評価できる。</p>

評価項目	自己評価(課題・今後の改善方策など)	学校関係者評価
	<p>より、教育効果を可視化し、分析結果を学校運営に反映させていく。</p> <p>また、卒業後のキャリア形成に関する情報も十分に収集されておらず、教育課程の改善に活かされていない現状がある。これを改善するために、卒後1年・3年を対象とした定期アンケートを実施し、教育活動との連動を図る体制づくりを進めていく。</p>	
4. 学生支援	<p>本校では、学生支援体制の整備に力を入れており、特に就職支援や資格取得支援においては、教職員が連携して高い成果を上げている。たとえば、就職活動では3年次からアドバイザー制度を通じて小論文や面接指導を実施し、今年度は就職率98.9%、第1希望就職率97.2%を達成した。</p> <p>一方で、支援の活用状況には学生間で差が見られ、支援の均一化が課題とされている。今後は、標準化された就職支援スケジュールの提示や、学生が安心して支援を受けられる体制の構築が求められている。</p> <p>また、メンタルヘルス支援については、学年担任による定期面談に加えて、スクールカウンセラーの隔週配置により希望者が相談できる体制を整備しているものの、利用件数は限られており、周知や利用促進が課題となっている。今後は、相談のしやすさを高める工夫や、教職員間での情報共有体制の強化が必要である。</p> <p>保護者連携についても、現在は問題発生時の連絡に限られており、予防的な関係づくりが不十分である。学期ごとの学習報告や学校通信の導入を通じて、定期的かつ前向きなコミュニケーションを推進していく方針である。</p> <p>さらに、卒業生支援や高校等との連携、社会人学生への対応についても、それぞれ限定的な実施にとどまっていることが課題として挙げられている。今後は、それぞれの取組を組織的・継続的なものと発展させるために、記録の蓄積や支援ガイドラインの整備、地域・他校との交流の場の創出などが求められる。</p>	<p>進路・就職、その他の相談については、かなり踏み込んだ丁寧な支援ができています。ただ、学校全体の体制が十分には整っていないために、一部の教員に負担が偏っているようであり、早急に体制を整える必要がある。学生だけでなく親への関わりも必要な場合、教員だけでは対応しきれないことも予想されるので、第三者である院外の支援を強化するなどとも考慮する必要があります。</p> <p>奨学金制度も整備されており、その利用率も高く、適正に支援ができています。健康管理についても適正に実施されている。課外活動については活発に企画、実施されており、学生同士や教員との関係作りなどに役立っている。学生の生活環境への支援については、支援の可視化や周知が必要である。</p> <p>卒業生への支援として、受け入れが容易なLINEを活用しており、工夫がうかがえる。また、社会人学生に対する入学後の支援体制や教育環境への配慮についても、パンフレットの卒業生の声から、充実していることがうかがえる。高校訪問は定期的実施されているが、キャリア教育・職業教育の取り組みには、高校とのさらなる連携が必要である。</p>
5. 教育環境	<p>ハード面の環境を整えることはもちろんのこと、学生が安心して、より効果的に学習できる場や機会を設けるといっても、授業だけにとどまらず、研修やボランティア活動などの機会を学生に積極的に提示し参加を促していく。</p> <p>BCPの作成が出来ていないのが課題である。</p>	<p>定員以上の学生を収容しているが、内容によっては教室を複数確保した授業を展開しており、工夫が見られる。また母体病院からの物品の提供があり、ベッドやモデル人形なども必要数以上に配置できており、学生が学びやすい環境を提供している。防災体制についてはBCPが未作成であり、学校の立地や環境を考えても、早急な検討が必要である。</p>
6. 学生の受入れ募集	<p>学生募集活動でアドミッションポリシーを明示、入試は入学試験実施規程に基づいて行い入学定員を満了した。</p> <p>2024年度に学費を改定したが私立看護学校では低額に抑えている。積極的な広報活動を行うために国試合格率を上げることが課題である。</p>	<p>看護学校の中には定員を下回る学校も増えている中、入学定員を継続して満たしていることは評価できる。学習環境や学納金等において、学生が選びやすい工夫・配慮がなされていることや、学生の募集活動が効果的に行われていることの表れである。</p>

評価項目	自己評価(課題・今後の改善方策など)	学校関係者評価
7. 学校運営	<p>学校運営は、学校指定規則、近森会グループの理念を軸にカリキュラムを構築し、教育を実施している。運営組織は校務分掌により明確化し各種会議や委員会は役割分担表により明示し、教務会議、運営会議で意思決定されている。学校のコンプライアンス体制は、近森会の規定に準じ整備される一方で、ハラスメント対応等、未整備なものもある。教育活動の情報公開は、近森会の広報誌やホームページ、SNS で発信し高知県下に浸透している。情報システム化について、インフォリッパー等は導入により活用が徐々に進んでいる。今後は、人事、給与制度について教育機関として、他の学校との整合性について検討すること、教員の授業準備、研究等の時間確保、教員の学校運営に対する積極的参加の推進、合理的配慮における取組の推進が課題である。</p>	<p>母体となる近森会の理念と通貫した教育方針のもと、学校指定規則に則って秩序ある運営体制が構築され、教育組織としての分掌や責任の所在も明確である。また、情報公開や ICT の活用も着実に進められており、教育活動の透明性と業務効率化が図られており、現場の教職員の取組には誠実さが感じられ、地域の医療人材育成における使命を果たす姿勢が全体に浸透している。今後は、教職員の人材育成と意思決定機能のさらなる強化、並びに教員個々人の自律性の向上が期待される。</p>
8. 財務	<p>志願者数・入学生数・在籍者数は安定し、定員は充足している。財務について入学定員の確保、授業料の値上げなどで収入確保を目指した。学校運営に必要な予算を確保して予算執行をしている。ただ、少子化による学生数の減少や進学先の大学志向で入学生確保を継続していることが課題である。</p>	<p>安定した志願者数の確保によって学生納付金が堅調に推移しており、健全な財務基盤が維持されている。収支計画についても、教育環境の維持・向上に必要な要素を的確に織り込んだ予算策定がなされており、監査体制や財務情報公開の仕組みも整備されている。今後は、少子化や進学志向の変化に備えた中長期的な視点での収入の多様化や、財務の透明性のより一層の強化が課題となる。</p>
9. 法令等の遵守	<p>関係法令、指定規則を遵守して学校運営を行い、学則をはじめ必要な規則規程を整備している。諸規程は、ファイリング・PC 内の共有フォルダに収納して、教職員が閲覧できるようにしている。学生に関係する規程は、学習の手引ぎに掲載して周知している。法令等に変更があれば変更届を提出している。</p> <p>個人情報保護に関しては、個人情報保護方針に基づき対応をしている。</p> <p>自己点検・自己評価の結果、学校関係者評価結果は報告書にまとめ、ホームページに掲載している。自己評価の課題として卒業生対応を可視化できる様にすることが必要である。</p>	<p>学校運営に係る関係法令、指定規則を遵守しており、学則をはじめ必要な規則規程は整備されている。個人情報保護に関しても、個人情報保護方針に基づき対応をしている。自己点検・自己評価の結果や学校関係者評価結果は、報告書にまとめてホームページに掲載している。ただ、そこで指摘されたことの全てが達成できているわけではないので、引き続き改善に努めることが望まれる。</p>
10. 社会貢献・地域貢献	<p>学生のボランティア活動の支援は、毎年龍馬マラソンへの参加が継続できている。地域・在宅の実習を重ね地域住民との交流が深まり、意識も高まっている。今後は自主的な活動に向けての支援が望まれる。学校の教育資源を活用した社会貢献は施設の活用について準備が進んでいる。</p> <p>地域に対する公開講座は、母体病院での研修に加え、臨床や看護協会において幅広く貢献できている。</p>	<p>ボランティア活動は多くの学生が参加し、社会貢献としても一定の実績があると評価できる。学校や学生が主体となった地域貢献活動に関しては、民生委員との懇談や高知龍馬マラソンでのボランティア活動、敬老会への参加、さらには学園祭の地域への呼びかけなどがある。地域に対する公開講座や各種研修等に関しては、複数回開催されており、研究発表や研修講師受託も含めて積極的に実施している。今後は、学校の教育資源をより積極的に活用した活動のさらなる活性化が望まれる。</p>